

# 南極舟底池周辺の完新統から産出したウェッデルアザラシ化石

牧田侑子<sup>1</sup>、瀬戸浩二<sup>2</sup>

<sup>1</sup>京都大学大学院理学研究科

<sup>2</sup>島根大学汽水域研究センター

## Fossilised *Leptonychotes weddellii* (Mammalia: Pinipedia) from the Holocene sediment near Lake Hunazoko, Skarvsnes, Antarctica

Yuko Makita<sup>1</sup>, Koji Seto<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Graduate School of Science, Kyoto University

<sup>2</sup>ReCCLE, Shimane University

In Antarctica, several fossil *Leptonychotes weddellii* (Lesson, 1826) were collected by the 38<sup>th</sup> (1998) and 46<sup>th</sup> (2006) Japanese Antarctic Research Expeditions. These fossils comprise cranium, front side of the body, and hindlimbs derived from three individuals, and exhibit <sup>14</sup>C age of 2550 yrBP. Particularly, front side of the body is composed of a part of cranium, mandible, forelimbs, ribs, and others. It co-occurs with some species of fossil fish bones and squamæ which are concentrated within sediment surrounded by ribs of fossilised *L. weddellii*. This might suggest that these fish materials are interpreted as stomach content, and the present seal species has preyed on a variety of fishes.

第38次(1998年)・第46次(2006年)の南極地域観測隊で、舟底池周辺の地層中からアザラシの骨化石が発見・採集された。南極産アザラシについてはこれまでに、ドライバレー等でミイラ化個体が見つかることは知られているが、地層中からアザラシの骨化石が発見されたとは報告されていない。発見された部位は頭骨、前半身(頭骨の一部・下顎骨・前肢骨・肋骨など)、後肢骨であり、これらは頭骨の縫合線や骨端の癒合程度・重複部位の有無から3個体分であると判断される。本研究では、欠損部位が少なく、各部位間の相対的な位置関係が保たれた前半身の化石に注目し、骨学的な検討結果および産状や保存状態について報告する。

本個体は、下顎類歯の形態に基づいて *Leptonychotes weddellii* (Lesson, 1826) であると同定され、骨端の癒合程度から体長は約150~180 cmの亜成獣であることが明らかになった。なお、骨化石が示す<sup>14</sup>C年代値は、2550 yrBPである。

本個体と共に、複数種の魚類の骨(頭の一部・歯・肋骨・椎骨など)や鱗も見つかっている。これらは *Leptonychotes weddellii* 化石の肋骨の内側の堆積物から産出し、局所的に密集する。また、産出層準の珪藻質泥層には生物擾乱は認められないが、魚類の骨は関節していない。以上から、この魚類の骨や鱗などは共産の *L. weddellii* が捕食し、消化途中のものであると考えられる。さらに、魚類の骨が形状を保っていることを考慮すると消化初期、胃の内容物である可能性が高い。